

(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 姿勢異常を呈するレビー小体病剖検例における脚橋被蓋核の病理学的検討

【研究責任者】 病院 臨床検査部 医長 齊藤祐子

【本研究の目的及び意義】

・目的

パーキンソン病およびレビー小体型認知症(以下、レビー小体病)患者様の剖検例において、脳幹の脚橋被蓋核のリン酸化 α シヌクレイン病理などの病理学的背景が、姿勢異常(腰曲がり、首下がり)を呈する患者様と、呈さない患者様とを比較検討することで、違いがあるかどうかを明らかにし、脚橋被蓋核の α シヌクレイン病理を含めた病理学的意義付け、背景を明らかにします

・研究の意義

レビー小体病は、全年齢で1000人に1人、70歳以上では100人に1人に発症する頻度の高い神経変性疾患です。ふるえ、動作緩慢、筋強剛、姿勢反射障害などの運動症状が広く知られていますが、最近では非運動症状も問題とされています。中でも、姿勢異常(腰曲がり、首下がり)は他のパーキンソニズムに比べて、しばしば薬物治療抵抗性であり、患者様のQOL、ADLを大きく損なう原因となっていますが、いまだその機序は明らかになっていません。

レビー小体病の姿勢異常の原因病巣として、脳幹の脚橋被蓋核が想定されています。レビー小体病の特徴として、神経細胞内に α シヌクレインの沈着が知られています。この脚橋被蓋核における α シヌクレイン沈着を評価し、姿勢異常を呈した例と呈さない例とを比較することで、姿勢異常のメカニズムを明らかにするためにこの研究を行います。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

2010年4月1日以降、国立精神・神経医療研究センター病院 ブレインバンクでご遺族が患者様の死後脳(剖検脳)の研究使用に関して同意し、NCNPブレインバンクに提供された方のうち、パーキンソン病やレビー小体型認知症と診断された方。

利用する試料・情報等

試料:剖検脳組織(パラフィン包埋脳切片)

情報等:診療録(年齢、性別、診断名など)

研究期間

2018年5月21日より2023年1月31日まで

【共同研究機関】

なし

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 病院
所属 臨床検査部 病理検査室 氏名 齊藤 祐子
電話番号 042-341-2711(代表)
e-mail:yukosm@ncnp.go.jp

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局
e-mail:ml_rinrijimu※@ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)